

ねぎの省力周年栽培法

1. 試験のねらい

近年、県内の畑地帯を中心にねぎの生産が増加傾向にある。この栽培では定植機が利用されており、従来からの手植作業に比べ4～5倍能力が向上している。さらに、省力化をはかるため、管理機、掘取機や皮むき機が導入されている。これらの機械の効率的な利用をはかるため、夏ねぎ生産にとどまらず、ねぎの周年生産を推進する必要がある。そこで、夏及び秋冬どりに適応する品種選定とさらに省力的で品質向上のはかれる栽培法確立について試験を行った。

2. 試験方法

夏どりねぎの品種選定は、直播栽培と移植栽培の2栽培法で行ない、播種は平成2年9月25日に行った。直播栽培は畝巾80cm、株間3cm間隔に1粒ずつ播種した。移植栽培は平成3年3月9日に畝巾80cm、株間3cmに定植した。秋冬どりねぎの品種選定は、平成3年3月8日播種、5月30日に畝巾80cm、株間3cmに定植を行った。機械定植法の確立をはかるためのセル育苗のセルの大きさは、128、200、288、392のセル穴数で1粒播種（平成2年9月26日）で、定植は平成3年3月9日に畝巾80cm、株間3cmに定植した。栽植法は秋冬どりねぎの品種と同じ播種（平成3年3月8日）、定植は5月30日で畝巾80cmとし、株間3cm、1本植、株間9cm、3本植、株間15cm、5本植えて検討した。施肥量は3要素とも2.5Kg/a施用した。

3. 試験結果および考察

- (1) 夏どりねぎの適品種は吉蔵、越谷黒、OT冬が、秋冬どりねぎは黒昇Y、宏太郎、OT冬が有望であった。（表-1、2、3）
- (2) セル育苗移植栽培におけるセルの大きさが生育、収量、品質に及ぼす影響は小さく、セル穴数を392としても問題はないものと思われた。また、セル育苗では夏どりねぎの品質低下の要因となる抽だいの発生もほとんどないため、省力的で高品質のねぎが生産できると思われた。（表-4）
- (3) 栽植法では、1本植、3本植、5本植ともほぼ同じ収量、品質で、軟白部の曲り等の発生も認められなかったので、1ヶ所3～5本植えとしても栽培上の問題はないと思われた。（表-5）

4. 成果の要約

ねぎの品種については体型によりやや異なるが、これらの品種を中心に栽培を進め、ねぎの省力栽培についてはセル育苗で1セル3～5粒は種の苗を機械定植することにより、従来の栽培よりさらに省力化がはかれると考えられた。また、セル育苗により抽だいの発生もほとんどないため、高品質のねぎの周年生産が可能と考えられた。

（担当者 野菜部 木村 栄）

表-1 夏どりねぎの品種比較(直は栽培)

品 種	茎 数	調整重	草 丈	軟白長	軟白茎	抽台花茎数	総評
黒昇1	17.5 本	2,095 g	85.2 cm	36.7 cm	14.4 mm	0.03 本	
吉 蔵	18.0	2,655	85.6	35.2	16.9	0.11	◎
越谷黒	15.5	2,200	89.4	36.0	17.3	0.14	◎
聖 冬	19.0	2,195	89.5	34.6	14.9	0.05	
永 吉	18.5	2,465	93.5	35.0	16.6	0.11	
OT冬	15.5	2,240	90.3	33.1	18.3	0.23	◎
N-1	20.0	2,590	94.0	34.9	15.7	0.15	
増収2	14.0	2,300	82.1	32.6	19.4	0.06	
黒 昇	17.0	2,395	86.4	32.9	16.3	0.12	
夏黒1	19.5	2,260	85.9	33.6	16.8	0.88	

7、8月の2回収穫の平均 茎数、調整重は4,000 cm²当り
抽台花茎数は株当り本

表-2 夏どりねぎの品種比較(移植栽培)

品 種	茎 数	調整重	草 丈	軟白長	軟白茎	抽台花茎数
黒昇1	16.5	2,495	91.6	35.2	18.0	0.57
吉 蔵	17.0	2,285	83.5	35.7	17.5	0.62
越谷黒	16.5	2,610	91.9	35.5	18.5	0.65
聖 冬	16.5	2,475	95.9	35.8	18.2	0.26
永 吉	15.0	2,200	92.4	33.5	18.8	0.51
OT冬	17.0	2,560	96.7	37.2	17.9	0.72
N-1	16.5	2,045	96.5	36.3	18.7	0.17
増収2	16.0	2,250	86.5	33.7	17.2	0.41
黒 昇	15.0	2,175	89.9	33.9	17.5	0.44
夏黒1	17.5	2,285	90.7	35.0	17.4	0.89

7、8月の2回収穫の平均 茎数、調整重は4,000 cm²当り
抽台花茎数は株当り本

表-3 秋冬どりねぎの品種比較

品 種	茎 数	調整重	草 丈	軟白長	軟白茎	しまり	総評
宏太郎	18.0	1,695	90.5	27.2	14.2	4.0	◎
長 宝	15.5	1,315	78.4	29.2	13.6	3.5	
元 蔵	16.0	1,315	79.9	28.3	14.4	3.7	
吉 蔵	17.5	1,455	76.9	27.2	14.0	3.7	
OT冬	15.5	1,380	85.1	27.4	13.5	3.2	◎
N-1	15.5	1,490	92.1	28.6	14.1	4.3	
増収1	16.0	1,355	84.0	29.3	14.8	3.7	
東京冬	15.5	1,355	74.2	21.2	15.1	3.7	
冬 昌	16.5	1,450	83.4	27.9	14.0	3.8	
黒昇Y	19.5	1,740	83.6	27.4	14.6	3.8	◎

10、11月の2回収穫の平均 茎数、調整重は4,000 cm²当り
しまり 1-不良-----5-良

表-4 セルの大きさと生育収量

セル穴数	茎 数	調整重	草 丈	軟白長	軟白茎	抽台花茎数
128	18 本	2,555 g	91.9 cm	29.7 cm	18.6 mm	0 本
200	17	2,315	95.6	29.5	16.9	0
288	17	2,658	92.3	30.9	18.1	0
392	18	2,645	96.3	32.5	18.2	0
露地育苗	15	2,180	92.0	34.6	18.0	0.59

7月30日収穫
茎数、調整重は4,000 cm²当り、抽台花茎数は株当り本

表-5 栽植法と生育収量

株 間	植付本数	茎 数	調整重	草 丈	軟白長	軟白茎	しまり
3 cm	1 本	18 本	1,463 g	78.5 cm	26.4 cm	14.4 mm	4.0
9 cm	3	18	1,485	79.8	28.0	14.4	4.2
15 cm	5	18	1,635	81.3	28.2	14.1	4.0

10、11月の2回収穫の平均 茎数、調整重は4,000 cm²当り
しまり 1-不良-----5-良 品種 吉蔵、夏扇